

# 河川基金助成事業

## 「藤前干潟クリーン大作戦・流域圏交流事業」 成 果 報 告 書

助成番号：2019-6112-012

河川協力団体  
藤前干潟クリーン大作戦実行委員会

実行委員長 坂 野 一 博

2019年度

## 1. 事業概要

### 1-1 活動の目的

土岐川、庄内川、新川の河口にある藤前干潟は長年の市民活動によってゴミ埋め立てを免れ、2002年11月に国設鳥獣保護区の指定とともにラムサール条約の登録地となった。日本有数の渡り鳥の飛来地である藤前干潟は、生命のつながりと私たちの暮らしのあり方を教えてくれる貴重な場所となった。しかし、当時の藤前干潟とその周辺の岸辺は、上流から運ばれたペットボトル、ビニール袋、発泡スチロールなどの石油原料の製品ゴミに覆われており、流域住民の良識が問われかねない状況にあった。

①「ラムサール条約に恥じない藤前干潟にする」、②「子供達が安心して遊べる干潟や川を取り戻す」、③「流域全体のゴミや水のことを考えるネットワークを形成する」の三つを目的に2004年10月5日「藤前干潟クリーン大作戦実行委員会」を結成した。

なお、第2回の取組以降、「伊勢湾ごみ流出防衛最前線」の活動と位置付け、より広い観点でのクリーンアップ活動をめざした。

### 1-2 実行委員会の構成

実行委員会には、「エコストック実行委員会」「土岐川・庄内川流域ネットワーク」「特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会」「リバーサイドヒーローズ・多治見さかなの会」の土岐川・庄内川で活動する4市民団体が参加して、全流域の市民、行政、企業、学生等と協働して「流域一体」のクリーン大作戦実施をめざした。

2006年春に「モリゾー・キッコロと環境活動を推進する会（通称：モリコロ会）」が、2010年春に「庄内川川ナビ歩こう会」が、2011年6月に「IPG（産業廃棄物専門家集団）」が、2015年春に「かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議」「土岐川・庄内川源流森の健康診断実行委員会」（2016, 4, 1「土岐川・庄内川源流の森委員会」に改称）「名古屋市稲永スポーツセンター」「なごや舞祭衆」「(一社)ClearWaterProject」「萌木舎」「中部大学ボランティア・NPOセンター」が、そして2016年4月に「名古屋野鳥観察館」が加わり、2017年3月には、「愛地クリーンプロジェクト」「中部大学上野研究室」が加わった。2019年3月に「愛地クリーンプロジェクト」が、2019年6月に「なごや舞祭衆」が退会し、現在15団体で活動している。

### 1-3 実行委員会発足とこれまでの取り組み

2004.5～ 「土岐川・庄内川流域ネットワーク」が清掃活動を開始。現地調査活動含め計3回の清掃活動を実施。

2004.10.05 「エコストック実行委員会」「土岐川・庄内川流域ネットワーク」「特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会」「リバーサイドヒーローズ・多治見さかなの会」の4市民団体が「藤前干潟クリーン大作戦実行委員会」を結成。

2004.10.24 地域の3自治会（港西、稲永、野跡学区）および、国（国土交通省、環境省）・愛知県・名古屋市・名古屋港管理組合の行政、企業（建設業中心）との協働で第1回「藤前干潟クリーン大作戦」を240人の参加で実施。45Lゴミ袋で830袋収集。

2005.05.08 自治会（3→7学区）および、行政、企業（ペットボトル使用メーカーも参加）、学生との協働で第2回「春のクリーン大作戦」を430人の参加で実施。45Lゴミ袋で

- 1,400袋収集。この取組以降「伊勢湾ごみ流出防衛最前線」の活動と位置付けた。
- 2005.11.13 自治会（7→8学区）および、行政、企業、学生との協働で、上流の土岐川流域からの100人を超える参加もあり 第3回「秋のクリーン大作戦」を612人の参加で実施。45Lゴミ袋で2,023袋収集。
- 2006.05.27,28 参加自治会も増え（8→9学区）、新たに「NPO法人モリゾー・キッコロと環境活動を推進する会（略称：モリコロ会）」も実行委員に加わったが、「第4回'06春のクリーン大作戦」は雨天中止となった。
- 2006.11.05 春のうっぷんを晴らすかのようにゴミを拾い、628人が参加し「第5回'06秋のクリーン大作戦」を実施。45Lゴミ袋で1,784袋収集。モリゾー・キッコロが初参加。
- 2007.04.15 ゴミシンポジウムを稲永ビジターセンターで実施。
- 2007.05.19 「第6回'07春のクリーン大作戦」を実施。メイン会場を稲永として取り組み、748名が参加。45Lゴミ袋で1,314袋収集。
- 2007.11.10 第7回「'07秋のクリーン大作戦」を実施。614名が参加。45Lゴミ袋で1,284袋収集。
- 2008.05.17 第8回「'08春のクリーン大作戦」を実施。750名が参加。45Lゴミ袋で800袋収集。
- 2008.09.09 IUCNのカウントダウン2010キャンペーンに登録
- 2008.11.15 第9回「'08秋のクリーン大作戦」は、実施直前の雨により中止。
- 2009.05.23 第10回「'09春のクリーン大作戦」を実施。939名が参加45Lゴミ袋で1,018袋収集。この回から干潟観察会を開始する。
- 2009.10.31 第11回「'09秋のクリーン大作戦」を実施。10会場に初の千人越えとなる1,190名が参加。45Lゴミ袋1,791袋収集。この回から流域5地点の水質調査を開始。
- 2010.03.31 「庄内川歩こう会」が実行委員会に加入
- 2010.05.29 第12回「'10春のクリーン大作戦」を実施。11会場に1,632名が参加。45Lゴミ袋で1,800袋収集。ペットボトルごみを減らすためのアンケートを開始、以降3回連続して実施。
- 2010.10.23 第13回「'10秋のクリーン大作戦」を実施。11会場に1,474名が参加。45Lゴミ袋で2,080袋収集。
- 2011.05.14 第14回「'11春のクリーン大作戦」を実施。11会場に1,483名が参加。45Lゴミ袋で1,879袋収集。
- 2011.06.03 「IPG（産業廃棄物専門家集団）」が実行委員会に加入。
- 2011.11.12 第15回「'11秋のクリーン大作戦」を実施。11会場に1,589名が参加。ゴミ袋45Lゴミ袋で2,293袋収集
- 2012.01.29 「第1回土岐川庄内川流域圏のゴミと水を考える集い」開催。31団体(25市民団体と6行政団体等) 60名が参加した。ごみを出さない社会をめざした7項目アピールを採択し、三重県答志島の漂着ごみのクリーンアップ活動参加を決定。
- 2012, 03, 11 愛知、岐阜、三重の三県市民団体により、三重県答志島の漂着ゴミゼロをめざす、「22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」結成に参加する。この後、活動の具体化に主体的に参画し活動に結集する。
- 2012, 05, 19 第16回「'12春のクリーン大作戦」を実施。11会場に1,821名が参加。45Lゴミ袋で2,034袋収集。過去最高の参加者を記録。ゴミも春としては過去最高を収集。

- 2012, 06, 09 奈佐の浜プロジェクト委員会提起の三重県答志島奈佐の浜の下見清掃に愛知県の事務局として27団体54名を取り纏めて参加。3県全体の参加者は300名。
- 2012, 09, 08 奈佐の浜プロジェクト委員会提起の三重県答志島奈佐の浜の大清掃活動に愛知県事務局として35団体115名を取り纏めて参加。3県全体の参加者は500名。
- 2012, 10, 27 第17回「'12秋のクリーン大作戦」を実施。11会場に1,876名が参加。45Lゴミ袋で1,802袋収集。過去最高の参加記録を更新。ゴミ収集数は過去5番目の数字。この回から中部大学ボランティアNPOセンターが活動に参加した。
- 2012, 11, 11 土岐川・庄内川最上流域の岐阜県恵那市三郷町で開催された「三郷の川のクリーン大作戦」に港区内の小中学生を中心に27名が参加し活動・交流した。
- 2013, 01, 26 第2回「土岐川庄内川流域圏のゴミと水を考える集い」開催。34団体(28市民団体と6行政団体等)66名が参加した。2回にわたる三重県答志島の漂着ごみクリーンアップ活動を報告。ごみを創り出さない社会をめざした7項目アピールを採択し、土岐川・庄内川流域の56の行政機関に発送し広報への活用を要請した。
- 2013, 04, 28 庄内川河口部のヨシ原の土壌有機物量調査に中部大学上野研グループにより着手。以降、12月17日まで現地調査を重ね、14年1月のごみと水を考える集いで調査結果の報告を発表した。
- 2013, 05, 25 第18回「'13春のクリーン大作戦」を実施。12会場に1,704名が参加。45Lゴミ袋で1,249袋収集。参加者は前年の1,800台には届かなかったが、3番目の参加者。ゴミは、前年の2,000袋台から過去4番目に少ない収集となった。
- 2013, 06, 08 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会提起の三県持ち回りの流域エクスカージョン1回目の岐阜県郡上八幡市で開催した「長良川流域エクスカージョンin郡上八幡市」の森林整備と学習・交流会に、愛知県の事務局として25団体49名を取り纏めて参加。3県全体の参加者は150名。
- 2013, 10, 13 奈佐の浜プロジェクト委員会提起の三重県答志島奈佐の浜の大清掃活動に愛知県事務局として33団体105名を取り纏めて参加。3県全体の参加者は300名。
- 2013, 11, 10 土岐川・庄内川最上流域の岐阜県恵那市三郷町で開催された「三郷の川のクリーン大作戦」に港区内の小中学生を中心に18名が参加し活動・交流した。
- 2013, 11, 16 第19回「'13秋のクリーン大作戦」を実施。11会場に1,737名が参加。45Lゴミ袋で1,573袋収集。1,700名台・過去3番目の参加者。ゴミ収集数は秋の取組としてはここ5年間で最低の収集数。春・秋とも収集数が減少している。
- 2014, 01, 26 第3回「土岐川庄内川流域圏のごみと水を考える集い」開催。41団体(34市民団体と7行政団体等)78名が参加した。ごみを出さない社会をめざした7項目アピールを採択し、土岐川・庄内川流域の58の行政機関に発送した。
- 2014, 05~2015, 01迄 庄内川河口部のヨシ原の土壌有機物量調査等に中部大学上野研グループによる2年目の調査活動が行われ、その結果は、15年1月の第4回ごみと水を考える集いで基調報告として報告を発表した。
- 2014, 05, 17 10周年第20回記念「'14春のクリーン大作戦」を実施。11会場に1,755名が参加。45Lゴミ袋で1,523袋収集。参加者は前年の1,800台には届かなかったが、3番目の参加者となり20回の延べ参加者は2万人を超えた。
- 2014, 06, 15 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会提起の三県持ち回りの流域エクスカージョン2回目を愛知県田原市で開催した。「西の浜エクスカージョン」の事務局を担当し

愛知県から200人3県で300人の参加者を得て清掃活動と勉強会を行った。この取組を契機に三河・渥美地方の市民団体の活動参加が始まった。

- 2014, 10, 12 奈佐の浜プロジェクト委員会提起の三重県答志島奈佐の浜の大清掃活動に愛知県事務局として三河地方参加者を含め106名で参加。3県全体の参加者は302名。
- 2014, 11, 09 土岐川・庄内川最上流域の岐阜県恵那市三郷町で開催された「三郷の川のクリーン大作戦」に港区内の小中学生を中心に17名が参加し活動・交流した。
- 2014, 09, 25 第21回「'14秋のクリーン大作戦」を実施。11会場に1,928名が参加。45Lゴミ袋で1,681袋収集。初めて1,900名台を超える参加者となった。ゴミ収集数は21回の通算で30,142袋となり3万袋を超えた。2010年～11年頃の1800～2000袋収集した頃から比べると、春・秋とも収集数が減少している。
- 2015, 01, 25 第4回「土岐川庄内川流域圏のごみと水を考える集い」開催。36団体(29市民団体と7行政団体等) 65名が参加した。ごみを創り出さない社会をめざした7項目アピールを採択し、土岐川・庄内川流域の62の行政機関に発送した。
- 2015, 03, 28 15年6月実施予定の22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会開催の流域エクスカッションが繰り上げて実施された。愛知県から65名、3県から250名が参加し、カエデ、サクラなどの広葉樹の植樹作業と交流会を行った。
- 2015, 04, 01 「かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議」「土岐川・庄内川源流森の健康診断実行委員会」(2016, 4, 1「土岐川・庄内川源流の森委員会」に改称)「名古屋市稲永スポーツセンター」「なごや舞祭衆」「(一社)ClearWaterProject)」が、実行委員会に加入。構成団体12団体になる。
- 2015, 05～2016, 01迄 中部大学上野研究室グループによる3年目となる庄内川河口部のヨシ原調査活動が行われ、その結果は、16年1月の第5回ごみと水を考える集いで報告・発表した。
- 2015, 05, 16 第22回「'15春のクリーン大作戦」は、準備万端整っていたが未明からの雨により、7年ぶりの中止となった。
- 2015, 07, 08 「萌木舎」「中部大学ボランティア・NPOセンター」が、実行委員会に加入。構成団体14団体になる。
- 2015, 10, 11 奈佐の浜プロジェクト委員会提起の三重県答志島奈佐の浜の大清掃活動に愛知県から66名が参加。3県全体の参加者は280名。
- 2015, 10, 24 第23回「'15秋のクリーン大作戦」を実施。11会場に2,424名が参加。45Lゴミ袋で2,154袋収集。初めて2千名を超え、第1回の10倍の参加者となった。ゴミ収集数は21回の通算で32,296袋となった。ここ数年収集量に減少していたが、春の大作戦が雨中止になったこともあり、過去2番目の収集量となった。
- 2015, 11, 08 土岐川・庄内川最上流域の岐阜県恵那市三郷町で開催された「三郷の川のクリーン大作戦」に港区内の小中学生を中心に19名が参加し活動・交流した。
- 2016, 01, 24 第5回「藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い」(「土岐川・庄内川など藤前干潟形成流域のごみと水を考える集い」を改称)開催。35団体(26市民団体と9行政団体等) 70名が参加した。ごみを創り出さない社会をめざした7項目アピールを採択し、土岐川・庄内川流域の60の行政機関に発送した。
- 2016, 04, 01 「名古屋野鳥観察館」が、実行委員会に加入。構成団体15団体になる。
- 2016, 06～2017, 01迄 中部大学上野研究室グループによる4年目となる庄内川河口部のヨ

- シ原調査活動が行われ、その結果は、17年1月の第6回ごみと水を考える集いで報告・発表した。
- 2016, 05, 21 第24回「'16春のクリーン大作戦」は、10会場に1,778名が参加、45Lゴミ袋で1,761袋収集。24回の通算参加数は27,653名となりゴミ収集数は24回の通算で34,057袋となった。
- 2016, 06, 11 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会開催の流域エクスカージョンが岐阜県で「揖斐川エクスカージョン」で開催され、愛知県から58名、3県から150名が参加した。
- 2016, 10, 29 第25回「'16秋のクリーン大作戦」を実施。11会場に2,305名が参加。45Lゴミ袋で2,081袋収集。昨年秋に次いで2千名を超え、第1回の約10倍の参加者となり、春・秋2回の参加者合計は初めて4千人を超えた。ゴミ収集数は25回の通算で36,138袋となった。
- 2016, 10, 30 奈佐の浜プロジェクト委員会提起の三重県答志島奈佐の浜の大清掃活動に愛知県から62名が参加。3県全体の参加者は360名。
- 2016, 11, 13 土岐川・庄内川最上流域の岐阜県恵那市三郷町で開催された「三郷の川のクリーン大作戦」に港区内の小学生を中心に25名が参加し活動・交流した。
- 2017, 01, 22 第6回「藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い」を開催。36団体(27市民団体と9行政団体等)81名が参加した。ごみを創り出さない社会をめざした7項目アピールを採択し、土岐川・庄内川流域の61の行政機関に発送した。
- 2017, 03, 09 「愛地クリーンプロジェクト」「中部大学上野研究室」が、実行委員会に加入。構成団体17団体になった。
- 2017, 04, 23 第8回新川クリーン大作戦に4名で参加し、クリーンアップ活動を通して活動を交流した。
- 2017, 05, 27 第26回「'17春のクリーン大作戦」を実施。11会場に1,724名が参加。45Lゴミ袋で1,480袋収集。26回までの延べ参加者は、31,639人、ゴミ収集数は26回の通算で37,618袋となり、延べ参加者が3万人を越えた。
- 2017, 06, 24 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会主催の三県持ち回り流域エクスカージョンを愛知県が担当し「藤前干潟エクスカージョン」を開催した。愛知県から122人全体で178人が参加した。
- 2017, 10, 08 奈佐の浜プロジェクト委員会提起の三重県答志島奈佐の浜の大清掃活動に知県事務局として57名で参加。3県全体の参加者は198人が参加した。
- 2017, 10, 21 第27回「'17秋のクリーン大作戦」の準備を整えていたが、台風21号による雨のためやむなく3年ぶり4回目の中止となった。雨企画として準備していた、中部大生24人を含むスタッフ36人が、庄内川最上流の三郷の川をきれいにする会の皆さん27人と「上下流交流会」を行った。
- 2017, 10, 28 えな環境フェアに藤前干潟のベンケイガニとともに、3名で参加し、藤前干潟の有用さと流域一体で漂着ごみゼロをめざそうとアピールした。
- 2017, 11, 11 土岐川・庄内川最上流域の岐阜県恵那市三郷町で開催された「三郷の川のクリーン大作戦」に港区内の小中学生を中心にしたイオンチアーズ茶屋等18名が参加し活動し、上下流交流会をした。
- 2018, 01, 21 第7回ごみと水を考える集いを開催。19市民団体、9行政機関、あわせて28団体63名が参加。流域一体となった「ごみの生まれない社会づくり」をめざす「アピー

- ル」を採択。流域内60の行政機関・地方自治体に発送した。
- 2018, 05, 26 第28回「'18春の藤前干潟クリーン大作戦を実施。11会場に1,724名が参加。45Lゴミ袋で1,480袋収集。28回までの延べ参加者は33,300人、ゴミ収集数は39,322袋となった。
- 2018, 06, 09 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会吉崎海岸エクスカージョンに愛知県から28人、三県全体で195人が参加した。
- 2018, 10, 14 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会の答志島奈佐の浜の清掃活動に愛知県から44人、三県全体で200人参加した。
- 2018, 10, 27 第29回「'18秋のクリーン大作戦」は、1,211人が参加した。45Lゴミ袋で2,772袋収集。29回までの延べ参加者は34,451人、ゴミ収集数は41,919袋となった。
- 2018, 11, 10 土岐川・庄内川最上流の岐阜県恵那市三郷町で開催された「三郷の川のクリーン大作戦」に名古屋市港区内の小中学生を中心にしたイオンチアーズ茶屋のメンバー等19名で参加し活動・交流をした。
- 2018, 12, 15 台風21号24号で打ちあがったペットボトル等の漂着ごみ一掃のため、異例の秋2回目のクリーン大作戦を実施。110人が参加した。45Lゴミ袋459袋を収拾（可燃ごみ；360袋、不燃ごみ：96袋、発火性ごみ3袋）。秋の取組（河川管理者の維持管理併せ）約20万本を収拾した。
- 2019, 01, 26 第8回ごみと水を考える集いを開催。27市民団体、10行政機関、あわせて37団体92名が参加。流域一体となった「ごみの生まれない社会づくり」をめざす「あぴーる」を採択。流域内60の行政機関・地方自治体に発送した。
- 2019, 03, 13 愛地クリーンプロジェクト脱退を確認
- 2019, 05, 18 第30回記念「'19春の藤前干潟クリーン大作戦を実施。11会場に1,514名が参加。45Lゴミ袋で2,034袋収集。30回までの延べ参加者は36,200人、ゴミ収集数は44,587袋となった。前年9月に来襲した二つの台風の高潮により庄内川・新川の高水敷に打ち上がったペットボトル等の石油由来生活ごみを、昨年秋の大作戦と河川管理者庄内川河川事務所の「維持管理」との「協働」の取組で「一掃」し、活動15年・30回の取組で、ヨシ原も含めて3.4kmまでの岸辺をリセットする画期的な到達点を築いた。第30回までの延べ参加者は36,200人、ゴミ収集数は44,587袋となった。
- 2019, 06, 08 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員長良川エクスカージョンに愛知県から5人が参加した。
2019. 07. 25 国土交通省庄内川河川事務所長から2回目の感謝状受賞
- 2019, 06, 11 なごや舞祭衆の団体を確認
- 2019, 10, 13 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会の答志島奈佐の浜の清掃活動に愛知県から50人、三県全体で200人参加した。
- 2019, 10, 26 第31回「'20秋のクリーン大作戦」は、1,570人が参加した。45Lゴミ袋で1,495袋収集。31回までの延べ参加者は37,770人、ゴミ収集数は46,082袋となった。
- 2019, 11, 11 土岐川・庄内川最上流の岐阜県恵那市三郷町で開催された「三郷の川のクリーン大作戦」に名古屋市港区内の小中学生を中心にしたイオンチアーズ茶屋のメンバー等16名で参加して活動・交流をした。
2020. 01. 17 第20回中の未来創造大賞「大賞」を受賞
2020. 02. 09 河川財団から2018年度優秀成果賞を受賞

2020, 01, 25 第9回ごみと水を考える集いを開催。24市民団体、10行政機関、あわせて34団体66名が参加。流域一体となった「ごみの生まれない社会づくり」をめざす「あびーる」を採択。流域内60の行政機関・地方自治体に発送した。

## 2. 活動内容

### 2-1 平成31年度の活動日時と場所

- (1) 第30回記念19春の藤前干潟クリーン大作戦  
日時：令和元年5月18日（土）  
場所：藤前干潟（土岐川・庄内川、新川、日光川下流域一帯）
- (2) 第31回20秋の藤前干潟クリーン大作戦  
日時：平成30年10月26日（土）  
場所：藤前干潟（土岐川・庄内川、新川、日光川下流域一帯）
- (3) 三郷のクリーン大作戦参加  
日時：令和元年11月11日（日）  
場所：岐阜県恵那市三郷町野井など
- (4) 第9回「藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い」開催  
日時：令和2年1月25日（土）  
場所：名古屋市港区藤前1-742 藤前会館
- (5) 奈佐の浜プロジェクト委員会提起の活動に参加
  - ① 長良川エクスカージョン  
日時：令和元年6月8日（土）  
場所：岐阜県長良川
  - ② 奈佐の浜大清掃活動  
日時：令和元年10月13日（日）  
場所：奈佐の浜大清掃は三重県鳥羽市答志島

### 2-2 活動実施に向けた事前の取組

- (1) 前年の秋の取組までに、実施当日に潮位が正午前後に干潮を迎えることを最優先にして「春の藤前干潟クリーン大作戦」を5月18日（土）、「秋の藤前干潟クリーン大作戦」を10月26日（土）に実施すると決定し、両取組日に焦点を合わせ、毎月1回の実行委員会を開催し具体化を図った。

適時に、協力団体への要請、広報チラシの発送、現地調査、参加者の安全確保のための草刈等会場設営、ごみ袋、軍手、熱中症対策用品等の安全実施のため消耗品等の確保等の事前準備を整え本番当日を迎えた。

第30回記念20春の藤前干潟クリーン大作戦は、平成30年9月に相次いで襲来した台風21号、24号による高潮で長年ヨシ原が確保していたペットボトルが大量に岸辺（高水敷）に打ち上がったペットボトル等の化石燃料由来生活ごみを「19春の大作戦までに一掃」し、大出水で伊勢湾に流出を阻止する「ペットボトル一掃完結大作戦」と位置付けて開催した。このために、河川管理者・国交省庄内川河川事務所と連絡・調整し、作業エリアの分けなどをして、前年の秋の大作戦は異例の2回実施をしたうえで、春の大作戦を



取り組んだ。

また、第31回秋の大作戦は、同日、最上流で開催された「えな環境フェア」会場に大作戦の開会からライブ中継することを事前調整し、流域一体で漂着ごみをなくそう！とアピールすることを目的に取り組んだ。

11月9日(土)の「三郷の川のクリーン大作戦」は、最上流で活動する「三郷の川をきれいにする会・三郷町まちづくり委員会」と連絡・調整し参加を決定。藤前干潟クリーン大作戦参加者や藤前干潟近くのイオンチアーズの皆さんを中心に下流からの参加者を募った。

- (2) 第9回「藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い」を1月25日(土)に開催することを確認し、土岐川・庄内川森の健康診断実行委員会と四日市ウミガメ保存会、NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター、22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会の5者連名による「呼びかけ文」等を伊勢三河湾流域圏で活動する市民団体と行政・地方自治体に発送し参加者を募った。
- (3) 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会主催の6月8日(土)の「長良川エクスカージョン」、10月13日(日)の「奈佐の浜海岸清掃活動」は、奈佐の浜プロジェクト委員会の役員会に参加し企画・運営に参画した。当実行委員会は、両活動とも活動参加募集チラシ等を加盟団体・協力団体に郵送、メール送信するなどして参加者を募った。

### 2-3 活動の内容

- (1) 参加人数と集約したゴミの量

第30回記念 春の大作戦：11会場に1,514名参加、45Lゴミ袋2,034袋収集。

干潟観察会参加者136名 ヨシ植栽会参加者35名

第31回 秋の大作戦：10会場に1,570名参加、45Lゴミ袋1,495袋収集。

干潟観察会参加者80名 ヨシ植栽実験参加者24名

三郷の川のクリーン大作戦：イオンチアーズの小学生を中心に16名が参加した。

第9回ごみと水を考える集い：34団体(25市民団体等と9行政団体等) 66名

- (2) 実施内容

- ① 5月18日(土)の第30回記念19春の藤前干潟クリーン大作戦、10月26日(土)の第31回19秋の藤前干潟クリーン大作戦と干潟観察会、ヨシ植栽会等関連した取組を滞りなく事故なく無事に実施した。

春の大作戦は、前年秋の二つの台風による高潮により打ち上がったペットボトルを中心とした河川燃料由来漂着ごみの「ペットボトル一掃大作戦」と位置付けて実施し、河川管理者との協働の取組でこれを「完遂」し、63ヶ所のヨシ原も含めてリセット状態とした。

藤前干潟に隣接する地元学区9自治会の参加を得て、藤前干潟一帯の11会場(秋は10会場)でクリーンアップ活動を実施した。メイン会場の中堤会場で、春は4地点・秋は5地点の流域内の水質調査を行い水環境改善への啓発を行った。

また、港区は伊勢湾台風の被災地であることから、春の大作戦では、あいち防災リーダー等による講演と炊き出し訓練を行い防災の啓発をした。

- ② また、春、秋ともにクリーンアップ活動後、希望者による「干潟観察会」とヨシ原復元めざした「ヨシ植栽会」(春の取組)、「ヨシ植栽を見守る会」(秋の取組)

を行い、干潟環境の大切さと保全を呼びかけた。

干潟観察会は、中部地方環境事務所稲永保護官事務所の職員の協力・指導で実施している。ヨシ原復元・ヨシ植栽実験等は、中部大学の上野准教授・上野研究室とNPO法人堀川まちネットの中島佳郎副理事長の協力・指導で実施した。

- ③ 11月10日(土)の三郷の川のクリーン大作戦に16名が参加した。この取り組みは、19秋の大作戦に最上流の恵那市から参加してもらっていることへのお礼として毎年実施している。クリーンアップ活動後に、「野井川のガサガサ」「瑞浪市化石博物館と化石採り体験」で上流域の生活と文化・歴史を勉強した。

「おにぎり昼食会」で上下流交流を深めた。化石博物館と化石採り体験で大昔、庄内川の最上流も海であったことを勉強した。この取り組みは、上下流の相互交流として第3回(2年目)以降、毎年秋に実施している。

- ④ 2020年1月25日(土)、第9回「藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い」を開催した。34団体(25市民団体と9行政団体等)66名と過去最高の参加団体・参加者があった。

「集い」では、記念講演に四日市大学環境情報学部工学博士の大八木麻希准教授から「伊勢湾のマイクロプラスチック」と題して、三重県の四つの海岸のマイクロプラスチックの調査結果と、三滝川でのネットを使って採取した流下マイクロプラスチックの調査結果などを報告して頂いた。特別報告の「2020年のヨシ原調査報告」は、中部大学上野研究室の二人から、前年のヨシ植栽実験と今年のヨシ植栽の結果から、移植は「5本以上の大株」「バイオトップサンドは覆土ではなく埋設」した方が生育の良いことを「有機物含量」等の測定結果も明らかにして報告してもらった。今年度からはじめた「ヨシ苗床」の生育結果をNPO堀川まちネットの中島佳郎さんに報告して頂いた。

四つの交流会では、自己紹介・活動報告に続いて「大八木先生の講演の感想」「マイクロプラスチック禍とならないために何をするか、何が出来る」等を話し合った。まとめの全体会で四交流会の座長が、マイクロプラスチック問題を普及啓発すること、プラスチックを回収・拾い続けること、企業への研究・開発、地域・社会・行政への働きかけること、プラスチック製品のデポジット制の導入など、具体策等も含めて多様な意見が出たことを報告した。「第9回ごみと水を考える集いからのアピール」を採択した。これを、土岐川・庄内川流域を始め、伊勢・三河湾流域圏の60の行政機関、地方自治体に郵送し広報等への活用を要請した。

- ⑤ 平成22年4月1日に結成した「22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」に、当実行委員会は、愛知県内・岐阜東濃地域の方々に参加を呼びかけ企画・運営で役割を果たした。6月8日の長良川エクスカージョンには愛知から5名参加し、10月13日の秋の奈佐の浜海岸清掃活動には、愛知県から50名、三県全体で200名が参加した。

### 3. 事業・活動の効果等

#### 3-1 運動の広がり

第1回目の「藤前干潟クリーン大作戦」(平成16年10月24日開催)は、地元3自治会と企業、行政との協働により240人の参加だったが、12年目の15年秋には2,424人、13年目の16

秋は2,305名の参加者となった。第1回から約10倍化し、15年には春・秋併せて4千人を超えるなど、土岐川・庄内川流域の春と秋の定例イベントとして定着した。

① 2019年度は、春・秋の合わせた参加者合計は、3,084人と前年の2,982人を上回り3年ぶりに3千人越えとなった。

毎回、早い時期から「クリーン大作戦」実施日の問い合わせがあり、春と秋の恒例イベントとして定着している。このため、前年の秋のクリーン大作戦前に翌年度の開催日を決定し、参加者に広報するとともに、ホームページにアップして告知している。

② 19春の取組は、「ペットボトル一掃大作戦の完遂」として取り組むことを「記者投げ込み」した。東海3県のシェアが80%と言われる中日新聞が、5月16日「市内版」17日「近郊版」にと連日、18日の春の大作戦を事前報道してくれた。また、当日の取組は、新聞は、中日新聞、あつたみなとニュースの2社が、テレビは、NHK、メ〜テレ、中京テレビ、テレビ愛知の4社が、本取組を報道してくれた。秋の取組は、中日新聞とテレビ愛知が、本取組を放送してくれた。

漂着ごみの実態とクリーン大作戦の取組が、当実行委員会の「コメント」も併せて広く報道されたことで、「伊勢湾をマイクロプラスチックの海」にしないために、漂着ごみを出さないこと、環境保護活動の大切さなどを流域内にアピールできた。

④ 地元の9学区自治会の皆さんは自主的に活動に参加してくれている。毎回、上流の土岐川流域（多治見市、恵那市）からの市民団体、中学生の参加者があるなど、流域各地で活動する市民団体、流域住民、企業、学生、地元自治会、行政などによる「流域一体」の活動としてしっかり定着した。

⑤ 中部大学生は、2012年秋の大作戦に初参加以来、実行委員会の一員として、毎回、積極的にリーダー等の役割を担って運営に関わっている。多治見市の二つの中学校から毎回参加があることも含め、若い世代の参加と活躍が増え、情報発信の場となっており、運動は次世代の育成の場としても着実に広がっている。

⑥ 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会が8年目の活動となり、長良川エクスカージョンは7回目、秋の奈佐の浜海岸清掃活動は9回目の活動として、愛知県から多くが参加し伊勢湾を軸にした運動は着実に広がっている。

⑦ 18秋の二つの台風による「高潮」で高水敷に打ち上がったペットボトル等は、河川管理者・国交省庄内川河川事務所との「協働」の取組で、この「一掃大作戦」を見事に「完遂」した。15年目の第30回記念の取組で、63歳のヨシ原が流出を阻止していた約50万本のペットボトルをはじめとした化石燃料由来生活ごみを一掃しヨシ原内を含めて「リセット」という、かつてない局面を切り開いた。

⑧ 「流域全体のゴミや水のことを考えるネットワークを形成する」目標は、第1回「ゴミと水を考える集い」から回を重ね9回目を数え「ごみの生まれない社会実現めざす7項目アピール」等への賛同団体は68団体（前年から5団体増）へと前進した。

⑨ 2020年1月17日に、「愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、長野県における社会資本の整備及びその利用・保全に関する活動に顕著な貢献が認められるもの」に授与される第20回「中部の未来創造大賞」の「大賞」を受賞した。審査員の講評に「大賞の藤前干潟のクリーン大作戦は、上下流間で連携を図り継続、発展させている上でも特筆すべきものがあつた」とあり、クリーンアップ活動だけでなく、流域一体めざした取り組みを含めて評価された。当実行委員会の活動が、目的に沿って広がっていることを客観的に評価していただいた。

### 3-2 目標に対する到達状況

**その1.** 「ラムサール条約に恥じない藤前干潟にする」との目標は、15年前の活動開始前のような、オートバイや自転車、家電ゴミが散在するような状態はなくなった。また、来訪者が目視できる範囲での干潟や河口の岸辺に漂着した化石燃料由来のペットボトルやビニール製品などの土に還らない生活ゴミは、毎年2回のクリーン大作戦で回収してきた。

しかし、土岐川・庄内川、新川河口3.4kmに広がる約62.86ha(内6.13haは裸地)(2018,11末現在、四日市大学千葉賢教授測量結果)のヨシ原がキャッチしているペットボトル等の回収には手がつけられない状態だった。ところが、一昨年9月に相次いで襲来した台風21号、24号による高潮により、ヨシ原がキャッチし伊勢湾への流出を阻止していたペットボトル等の化石燃料由来の膨大な生活ごみが浮き上がり土岐川・庄内川、新川の高水敷に押し寄せた。皮肉にも二つの台風が、ヨシ原内の埋蔵漂着ごみ一掃するチャンスを与えてくれた。

この事態を河川管理者と相談・協議し、当実行委員会委員会は2018年10月26日の秋のクリーン大作戦に加えた12月15日の秋の大作戦パートⅡ(ペットボトル一掃大作戦)と、2019年5月18日の19春のクリーン大作戦の3回の大作戦と、河川管理者の18年秋から19年4月までの「維持管理」との「協働」の取組でこれを一掃した。まさに官民協働の力で2018年度秋以降、約50万本のペットボトルを回収して、63%のヨシ原も含めて「リセット」するかつてない到達点を築いた。

高潮という自然の助力を得たとはいえ、藤前干潟から河口3.4kmまでの63haのヨシ原密集地内の漂着ごみを「一掃」できたことは、15年間の当実行委員会の輝かしい到達点と言える。

**その2.** 「子供達が安心して遊べる干潟や川を取り戻す」目標は、上記の漂着ごみの清掃活動の到達点と合わせて、クリーン大作戦後の「干潟観察会」に延べ17回1,625人が無事故で参加し、笑顔と歓声を上げてこれを楽しんだという実績が、この目標を藤前干潟周辺においては達成しつつあることを証明している。加えて、参加した子供から大学生などの若い世代の反応と参加者の増加傾向から、「川岸、干潟で遊ぶ楽しさ」等が、若い世代の中に着実に拡大している。2019年春の干潟観察会には136名、秋は80名合わせて216名の参加の実績は、この目標の達成が着実に前進していることを確認できる。

**その3.** 「流域全体のゴミや水のことを考えるネットワークを形成する」目標は、第1回「ゴミと水を考える集い」から回を重ね9回目を数えた。今回2回目となる「マイクロプラスチック問題」の記念講演を受け、マイクロプラスチック問題への認識が高まったことと、暫定値ではあるものの全国70河川90カ所の調査により、土岐川・庄内川が、マイクロプラスチックの流下数密度が全国第1であることが明らかになったことで、漂着ごみ問題が新たな局面を迎えているとの問題意識を更に強くした。

参加者全員でごみの生まれない社会実現目指したワークショップを行い参加者の認識を高めた。ごみの生まれない社会実現めざす7項目アピール等への賛同団体は68団体(前年から5団体増)へと前進した。

また、第1回の「ゴミと水を考える集い」の開催を契機に、発足した愛知・岐阜・三重三県の市民団体が結集する「22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」は8年目の活動となり、当実行委員会は主体的に参画し、三河地方も含めたネットワークづくりは着実に前進した。

「ネットワーク形成」は、活動の充実・前進をめざす域にまで到達した。

### 3-3 クリーン大作戦と環境改善

私たちのクリーンアップ活動開始直後に、ゴミに覆われていた岸辺（庄内川左岸-0.6kmなど）にはヨシが再生した。ヨシ衰退と漂着ごみの因果関係は、7年前からのヨシ衰退の原因調査等（中部大学上野研究室）で漂着ごみイベントと堆積が、ヨシ衰退の一因であることが証明されている。クリーン大作戦開始以前は確認されていなかった貴重種のヘナタリの増殖が干潟各地で確認されている。

庄内川河口部のヨシ原が衰弱・枯渇する状況が広がっている。一方でヨシの枯れ茎は伊勢湾に流出し、各地の海浜環境やノリ養殖などに影響与えていることが明らかになっている。藤前干潟のヨシ原の裸地は6,13ha（2018,11末現在、四日市大学千葉賢教授測量結果）と全ヨシ原の約1割となっている。このため、平成25年度からヨシ原衰退の調査活動を開始した。平成26年度～31年度は「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進活動」の助成をえて、中部大学上野研究室の全面的な協力のもと土壌、水環境等の専門的な観点を含め総合的な調査・分析を行った。その結果、平成29年度にヨシ枯れの主要原因は、大出水イベントとごみ堆積によるストレスにあるとの結論を得た。

平成30年度は「ヨシ原復元・ヨシ植栽実験」を行い、令和元年度は「ヨシ原復元・ヨシ植栽」を実施し、ヨシ植栽（移植）は大株（立茎5本以上）でバイオトップサンドの投入は、地下埋設方式がヨシ生育に有効であるとの研究結果を得たことで、ヨシ植栽（移植）活動の推進の方向性が一つ明らかになった。

上記ヨシ原の保全活動や、クリーン大作戦当日の流域5地点の水質調査、活動中のカニやトビハゼ、オオヨシキリとの出会いなどが、漂着ごみを伊勢湾に流出させない環境づくりを促進し、1級河川全国ワースト6位の庄内川の水質改善や、70河川90カ所の調査によるマイクロプラスチック流下数密度暫定第1位の改善に繋がる。

また、合わせて、ヨシ原を住処にするオオヨシキリ等の鳥類、ベンケイガニ等の多くのカニや生きものの環境保全に寄与している。引き続き生物多様性の維持につながる活動をめざす。

### 3-4 河川管理者との連携状況

河川管理者（国交省庄内川河川事務所）は、本実行委員会発足時から会議、打合せ、大作戦実行日に出席していただき適切なアドバイスを受けている。また、活動上必要な、河川管理に関わる各種便宜を図っていただいている。一昨年秋の二つの台風によるペットボトル等の「一掃大作戦」の完遂は、庄内川河川事務所との「協働」によってこそなれたものと認識している。

また、環境省中部地方環境事務所や、新川・日光川の河川管理者の愛知県、地元自治体である名古屋市をはじめ関係行政機関に働きかけ、市民団体、地元住民との協働の取組をより円滑にできるよう腐心しいていただいている。当日も含め準備段階から現地に出向き指導・協力を得ている。

なお、平成23年に庄内川河川事務所長表彰、平成24年に環境省中部地方環境事務所長、平成25年に国交省中部地方整備局長から表彰された。更に、令和元年7月に庄内川河川事務所から2度目となる事務所長表彰を受賞した。平成26年3月14日付けで河川協力団体に認定された。今後、河川環境改善・河川美化愛護の推進に向けて、河川管理者をはじめ関係行政との連携の強化に一層努力する。

様式11

3. 川づくり部門

[実施箇所位置図]

<p>助成番号 2019-6112-012</p>	<p>助成事業名 藤前干潟クリーン大作戦・流域圏交流事業</p>		<p>所属・助成事業者氏名 藤前干潟クリーン大作戦実行委員会 実行委員長 坂野一博</p>	
<p>助成事業の主な実施箇所</p>	<p>主な実施箇所 藤前干潟クリーン大作戦実施会場 下記実施箇所 位置図 参照 第9回ごみと水を考える集い会場 藤前会館 名古屋市港藤前1-742 三郷の川のクリーン大作戦会場 岐阜県恵那市三郷町野井川 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会奈佐の浜海岸清掃活動 三重県鳥羽市答志島奈佐の浜</p>			
	<p>藤前干潟クリーン大作戦実施箇所 位置図</p> 			
<p>河川基金ロゴ</p>	<p>遠景</p>		<p>近景</p>	
	<p>告知チラシ、当日しおり、報告チラシ等参照。</p>			
<p>延べ参加人数</p>	<p>一般</p>	<p>3,493 名</p>	<p>スタッフ・事務局</p>	<p>433 名</p>
<p>マスコミの反響</p>	<p>19春の藤前干潟クリーン大作戦：中日新聞が事前告知報道をした。当日は、新聞社は中日新聞、あつたみなとニュースの2社、テレビ局はNHK、メ〜テレ、中京テレビ、テレビ愛知の4社が取材・報道した。また、6月にも中日新聞が取材記者の感想などを報道した。 18秋の藤前干潟クリーン大作戦：中日新聞とテレビ愛知の2社が取材・報道した。 第9回ごみと水を考える集いは、記者投げ込みしたが取材・報道はなかった。 第20回中部の未来創造大賞「大賞」受賞が中日新聞で報道された。</p>			